

平成28年度（第60回）
岩手県教育研究発表会発表資料

音楽教育分科会

ギターを利用した発展的な授業実践 入門編
～器楽から創作まで～

平成29年2月10日
岩手県高校教育研究会音楽部会
岩手県立一関第二高等学校
教諭 勝部 健作

1 はじめに

岩手県立一関第二高等学校は、明治40年に郡立西磐井女子職業学校として創立され、県南の女子教育振興に尽力し、実科高女、一関高女、一関農業高校の分離・統合など幾多の変遷を経て、平成16年に総合学科高校として新「岩手県立一関第二高等学校」が誕生した。正門は『より逞しく、より巾広く、より清らかな青春の人間像』を内蔵し、豊かな人間形成を願ったものである。正門右上の球は『知徳行合一』を表現しており、その精神は現在も継承されている。平成19年の創立百周年記念には、校訓に『創造の意欲』が加わり、『自主の心 意志の力 創造の意欲』を校訓とし、新たな時代を切り拓いている。

全校生徒は在籍717名で、各学年6クラスで構成されている。芸術科目は「書道」、「音楽」、「美術」からの選択制であり、1年次に「音楽Ⅰ」「書道Ⅰ」「美術Ⅰ」2年次に「音楽Ⅱ」「書道Ⅱ」「美術Ⅱ」をそれぞれ履修する。音楽は3年次「音楽Ⅲ」まで開講し、学校設定科目である「ピアノ基礎A」「ピアノ基礎B」を選択履修できる。また、書道も同様に「生活の書」など本校独自の授業が選択できる。

音楽履修者は、幼い頃からピアノを習っていたり、歌うことが大好きだったり、教科への関心・能力が高い。楽しみながら授業に積極的に参加できる。しかし、素直に静聴しているようで、内容が定着していない事があるので、確認が必要である。

年間を通しての授業は、歌とギターを中心としている。そのうち、今回はギターの授業の一部を紹介したい。

2 研究動機

現在の生徒を取り巻く音楽環境で、最も身近な楽器の一つにギターが挙げられる。また、10代であれば一度は触ってみたい楽器の一つでもあるのではないだろうか。一昔前は、とてもポピュラーな楽器で所有率は高かったが、今ではギターを趣味で演奏している生徒は少ないように感じる。(1年生今年度履修者82名中、経験者2名)

そこで、授業でギターを取り上げ、愛好する心情を育むことは元より、その楽器に取り組むことで、学習指導要領の「A 表現」(2) 器楽から(3) 創作までを包括的に学べるような単元にしたいと考え研究している。

3 研究目的

この研究によって、ギターを愛好する心情だけでなく、生涯にわたり音楽を楽しむための知識や技能を身に付けさせたい。また、教える側が初心者であっても実践できる指導法を立案したい。

4 研究仮説

ギターの構造や奏法を学ぶ過程で複合的に音楽理論の基礎やソルフェージュを学べるのではないだろうか。また、教授者が初心者であっても実践できる授業を立案できるのではないか。

5 単元で学べる学習内容について

ギターの単元で学べる内容 マッピング (次ページ)

ギターの授業における学習内容 ツツピング

楽器について	具体例	音楽的な音楽知識・技能	発展的な学習内容
<p>特徴</p> <p>構造</p> <p>奏法</p>	<p>・基本的な奏法</p> <p>アポヤンド</p> <p>アルアイレ</p> <p>アルペジオ</p> <p>ストローク</p>	<p>・コードネーム</p> <p>・リズム感(8ビート等)</p>	<p>ギターに触れる、演奏する楽しさ</p> <p>音色へのこだわり</p> <p>奏法・リズムの違いによる曲の雰囲気の変化を楽しむ</p> <p>和音の美しさ</p> <p>和声進行</p> <p>楽曲の構造</p> <p>創作(作曲・編曲)</p>
<p>ギター</p> <p>(クラシック、フォーク)</p>	<p>コリットの位置</p>	<p>・音名について(英、独、伊、日)</p> <p>・音程について</p> <p>・音階について(コリットの構造)</p> <p>・調について</p>	<p>合奏、歌の伴奏、仲間と演奏する喜び</p>
	<p>TAB譜</p>	<p>・楽譜についての知識</p>	<p>楽譜を見て演奏することができる楽しさ</p>
<p>歴史</p> <p>楽器・音楽種類</p>		<p>・西洋音楽史・音楽のジャンル</p>	<p>様々な楽曲を鑑賞する喜び</p>

6 授業の実践

(1) 題材名

ギターで旋律を奏でよう ～「きらきら星」にチャレンジ～

(2) 題材目標

- ・「きらきら星」の旋律をギターのアポヤンド奏法で弾けるようになる。
- ・「きらきら星」の旋律を譜面化することで、楽譜の基礎的な知識を学ぶ。
- ・「きらきら星」の旋律に合う場面を自由にイメージし、速度記号や発想記号を工夫することで、音楽用語の理解とイメージを表現する。

(3) 対象クラス

1 学年音楽選択者（男子：4名、女子24名、計28名）

(4) 使用教材

- ・教育芸術社『Mousa 1』
- ・クラシックまたはフォーク・ギター
- ・教育芸術社『高校生のための音楽研究ノート』2007

(5) 取扱時間

3時間

(6) 観点別評価規準

観点1【音楽への関心・意欲・態度】

- ① ギターの奏法に関心を持ち、演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。
- ② 楽譜について興味を持ち、記譜する学習に主体的に取り組もうとしている。

観点2【音楽表現の創意工夫】

- ③ 音楽を形作っている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、楽曲のイメージにふさわしい音楽表現を工夫し、どのように表すかについて思いや意図をもっている。

観点3【音楽の表現技能】

- ④ 楽曲に対するイメージを音楽で表現するために必要な奏法や記譜法を身に付け、創造的に表している。

(7) 指導計画（3時間扱い）

- 楽曲を記譜し練習する . . . 1時間（第1時）
- 楽曲にそれぞれ自由にイメージを付帯し練習する . . . 1時間（第2時）
- 一人ひとり試験 . . . 1時間（第3時）

(8) 本時の展開 (第1時)

	主な学習活動	評価規準	備考
導 入	○単元のガイダンス ギターで旋律を奏でよう～「きら きら星」にチャレンジ～		・単旋律を弾けるよう になること。試験をす ることを告げる。
展 開	○「きらきら星」を演奏。 ○記譜法、ト音記号、音符、小節線、 拍子記号を指示 ○各自、練習	観点1-① 観点1-②	・演奏した曲を各々楽 譜にすることを告げ る。 ・机間指導し、奏法、 記譜法を丁寧に助言す る。
ま と め	○全体で演奏 ○本時の活動を振り返る。	観点3-③	・伴奏をしながら、進 捗状況を確認 ・次時を予告

7 結果及び考察

今回の単元によって、技能面としては、アポヤンド奏法と基礎的な記譜力がついた。また、個別指導によって、多くの生徒の奏法上の問題を解決することができた。上手く音が出せずに、途中で諦めてしまう生徒の多くの原因は、姿勢と左手の親指の位置である。姿勢が悪くギターのボディが安定していない生徒は左手でネックを握りしめてしまい可動域が狭まる。また、左手の親指の位置が上がり過ぎていたり、ネックに平行である生徒が多く、フィンガーボードに指の力を伝えられず音がビビってしまう。個別指導によって、この二点を補正することで「きらきら星」程度の難易度の曲であれば良い音で演奏できるようになった。

記譜では、四分の二拍子と指定したので、簡単に記述することができた。今後、より複雑な楽譜を書けるように授業を発展させていきたい。

8 まとめと課題

ギターの授業は音楽Ⅰで取り組み、音階（ハ長調スケール）から始まり、「きらきら星」で入門編を終える。さらにストローク奏法から、コードネームを学ぶ。音楽Ⅱではアルペジオ、アレンジ編に応用。音楽Ⅲでは合奏に発展していく。入門編で、他の簡単な曲にも取り組み、楽しみながらソルフェージュをも養っていきたいと思う。しかし、授業時数の関係でなかなか取り組めないのが現状である。

「長調の音階」も「きらきら星」も生徒はそれぞれ一時間で習得できる。教授者がギターに馴染みがなくても、ここまでであれば実践できるのではないだろうか。大事なことは、そこから音楽の知識を教え、さらに愛好する心情の育成であると私は考えている。

課題として、左利きの生徒に対する配慮を講じられない状況が続いている。ギターは県費備品に分類されるので事務室に何度か要望してみたが購入に至らず、左利き生徒も右利き用ギターを使っている。生徒によってはやはり弾きづらそうである。すべての生徒が平等に学ぶためにまずはハード面からクリアしたい。（※ ギターの弦は安価なので県費消耗品で買ってもらえることが多い。）